

雑草イネ T、雑草 PT はともに、県チームと地区チームの連携や情報共有を重視し、県内外の機関や会社からの支援や参画を受け、個々の農業経営に直結する雑草問題を早期に解決することを共通目的としている。このために、防除技術の体系や選択肢の提示、組織体制を含めた総合防除対策の企画立案を担い、現地検討会や全県研修会の開催等を継続している。

3 問題の早期解決のために

本県の雑草イネ、畑作の外来雑草に対して組織的な防除対策に取り組んでいるが、多くの雑草対策と共通し、明らかな顕在化や現場での危機感を出発点としている。このため、防除期間が長期化してしまい、防除費用に加え、減収や品質低下といった経済的被害も累積していると考えられ、解決のためには、生産現場における初発(最初の希少事例)を最重視し、一刻も早い初動につなげることが重要である。その基盤として、防除情報の収集や伝達、防除技術開発の迅

速化のため、植調協会関東支部に参画する各機関が保有する現地情報の活用、適2試験との連携を一層進めることを願うものである。

青木政晴 2017, 長野県における難防除雑草に対する防除技術開発と新たな防除対策体制の構築. 雑草研究, 投稿中

長野農試 2010a, 平成 22 年度長野県普及に移す農業技術「小麦作におけるアブラナ科帰化雑草防除には、播種後のガレース乳剤及びガレースG、越冬後のハーモニー75DF 水和剤の処理、小麦の晩播が有効である」.

長野農試 2010b, 平成 22 年度長野県普及に移す農業技術「1~2ヶ月の夏期湛水管理は麦連作圃場におけるアブラナ科帰化雑草の耕種防除として有効である」.

長野農試 2012, 平成 24 年度長野県普及に移す農業技術「雑草イネ総合防除対策マニュアル」

コラム

地産地消

大麦は、精麦業者の努力もあり、数年に一度はブームが来ます。最近では、もち麦が大人気で、機能性成分のβ-グルカン含量がうるちより高く、食感も良く、好評です。長野農試は平成 27 年度に「ホワイトファイバー」という、もち性六条大麦を育成しました。松本市で産地化され、国内産もち麦として販売されています。残念ながら表示は「大麦(国内産)」で、長野県産、松本産という表示はありませんが。

よく、大麦の精麦できるところはないですかという質問を受けます。今のところ長野県内に小口の精麦可能などところはないようです。京都に小型の精麦機を販売しているメーカーがあり、導入すれば、もち麦の地産地消ができ、産地での消費も拡

大すると思います。もち麦地産地消の事業化、いかがでしょう。

上原 泰(長野県)



写真 松本市で広がる「ホワイトファイバー」
平成 28 年 6 月

